

## 会 議 録

会議の名称	キャリア教育推進協議会 平成 29 年度 第 1 回
開催日時	平成 29 年 6 月 20 日 (火) 午後 4 時 00 分～ 5 時 30 分
開催場所	飯田市役所 C 棟 2 階 2 1 1 会議室
出席委員氏名	代田昭久会長 (教育長)、柴田忠昭副会長 (飯田商工会議所会頭)、中島武津雄委員 (飯田市社会福祉協議会会長)、小澤英文委員 (飯田職業安定協会)、田中真司委員 (飯田青年会議所)、佐々木祥二委員 (飯田市公民館)、桑田薫委員 (飯田市 P T A 連合会)、関島香津美委員 (飯田市 P T A 連合会)、熊谷恒雄委員 (飯田市校長会)、岩瀬晴雄飯田市校長会)、三浦伸一 (教育次長)、北原康彦 (学校教育課長)、中井文彦 (学校教育専門幹)
出席事務局職員	北澤俊規 (生涯学習・スポーツ課長)、近藤善彦 (地育力向上係長)、今村浩二 (地育力向上係)、熊谷芳巳 (地育力向上係)、田中清一 (教育指導主事)
会議の概要	以下のとおり

### 司会進行：北澤生涯学習・スポーツ課長

#### 1 開会

#### 2 あいさつ (代田教育長)

皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

教育に関するさまざまな事業がある中、このキャリア教育は非常に思い入れがある事業と感じています。私は 15 年前、東京で会社経営をしていました。その中で大きな仕事として、作家の村上龍さんの 13 才のハローワークという書籍をウェブにしてサイトでアップするというのをしていました。そのときの村上さんのメッセージは、子どもの頃から、職業・仕事を知っていた方が人生のアドバンテージになるということで、それに共感していました。そのサイトに寄せられる意見も、将来の夢や希望がもてないといった切実な悩みが多数寄せられており、就職を間際にして考えるのではなく、早いうちから職業感を養うことはとても大事なことと感じていました。その思いは未だかわっておらず、キャリア教育に対する思いを強く持っているところです。

今年度は、本格的にコミュニティスクールが始まりました。地域に根ざした学校づくりのため、学校の経営に地域の方も一緒になって話し合っていくものですが、そのコミュニティスクールにキャリア教育をどう位置づけていくかが今後大きなテーマになってきます。どちらもふるさとを誇りに思うという基軸は一緒であり、コミュニティスクールの組織をどう生かし連携していくかが大事になると思っています。

結びになりますが、宇宙留学サマーキャンプを今年も開催します。この世の中に宇宙ほど不思議なものはなく、子どもたちに好奇心や学ぶ意欲を育ていこうとするものです。更には、飯田市が進めている航空宇宙産業と連携して将来これを担う人材を育み人材サイクルを作っていければと思っています。この事業もキャリア教育の一環として、地元の方々に関わっていただきながら、地域に誇りを持ち働けることを目指す教育事業を目指していきます。

今年度から飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン 2028」、教育振興基本計画がスタートし

ます。新たな教育ビジョンの中で、キャリア教育も次のステップに移れるよう進めていきたい  
と思います。

### 3 自己紹介

### 4 協議

(1) 平成 29 年度キャリア教育の取り組みについて

- ①キャリア教育の定義について
- ②飯田市のキャリア教育の取り組みの経過
- ③「飯田型キャリア教育」について
- ④「飯田型キャリア教育」の推進体制について
- ⑤本年度の飯田市の取り組みについて
- ⑥飯田コミュニティスクールについて  
(事務局から説明)

(2) 本年度の職場体験学習の実施について

- ①各学校の日程等
- ②実施方法について
- ③受入事業所の状況について
- ④実施上の課題等  
(事務局から説明)

(3) 職場体験受入事業所の拡大に向けて

- ①職場体験の現状について課題の共有
- ②職場体験受入先の拡大について  
・コミュニティスクールの活用

(会長)

職場体験の受入事業所の拡大が課題となっています。現状について課題を共有できればと思  
いますので、ご意見をお願いします。

(A委員)

企業側は一度に数名しか受け入れられない。事業所を増やしたいのであれば先に企業側に日程  
を聞いて実施日を分散できないでしょうか。

(事務局)

市内中学校 9 校の日程がだぶらないように調整して、日程を確定したうえで、企業にお願いし  
ているのが現状です。

(A委員)

前年度のうちにアンケートを取り、どの時期なら受入可能か把握してから、企業にお願いすればよいのでは。

(B委員)

農業体験の受入のお世話をした際、農家に依頼するのに日程が決まっていることがネックになっていました。

(C委員)

飯田市の特徴は、教育委員会事務局が職場のコーディネートをしているところです。本来なら学校ごとに直接企業とやりとりをしなければならず、先生の負担は大きくなってしまいます。受入事業所も多いので、事前把握するには相当な準備や労力がかかると思います。

(A委員)

業種によって繁忙期があります。自分の会社も盆前や正月前などは忙しいですがそれ以外なら受入も可能になります。そういったことを把握することは必要だと思います。

(事務局)

受入事業所の数の課題だけでなく、業種のアンバランスもあります。飯田の産業構造からするともう少し製造業なども増やせるとよいと思います。ものづくりの現場などは仕事の内容からして受入が難しいのかもしれませんがいかがでしょうか。

(会長)

学校側の状況はどうですか。

(D委員)

竜東中学校は、人数が少ないので多くの事業所の中から選択ができています。大規模校は事業所の選択は大変だと思います。

(E委員)

こんなに多くの事業所の受入をしてもらえる飯田市のシステムはありがたく大事にしてほしいところです。本来は、進路指導の先生が個々に企業に電話してお願いしなければならないところです。以前から思っていることは、ぜひこの取り組みをケーブルテレビなどで発信していただくことで、親が理解をしてほしいと思っています。教育委員会ではさまざまなことをやっています。例えば作文コンクールは全県から応募作品が集まっています。キャリア教育というところだけ飯田市が目まぐるしく注目されているということなので、このことが企業にとってもPRになったりしてWINWINの関係になるとよいと思います。

(F委員)

私の子どもは昨年職場体験を行いました。職場を選べなかったことが残念と言っていました。職場を選べられる範囲が広がれば子どもたちも意欲を持って体験できると思います。自分自身も子どもの頃体験をしました。動物園へ行きましたが、普段は見ることのできない経験ができてよかったことを覚えています。また自分自身も企業に勤めるものとして受け入れることは大変ということはわかっていますが、アンケートをとっていただくのはよいのかもしれませんが、悪い噂が親の中で広まっていることを聞いたことがあって残念に思いました。

(G委員)

体験で来てくれる生徒が、希望した企業の場合は、生徒もいきいきしている傾向だと思います。生徒の方で希望の会社があれば、それを把握して希望と合致した企業で体験するのもよいのではないのでしょうか。

(H委員)

医療・福祉・介護、保育園・幼稚園へ6割くらいが行っているのが現状のようですので、これをばらけさせるには、受け入れる企業側の意識を高めなければいけないと思います。会頭の立場で協力しなければと感じました。

(J委員)

医療・福祉・介護関係の事業所は大変多くありますが、そこに携わる人が少ないため人員が取り合いになっているのが現状です。介護職場は機械ではできません。どんどん受入させていただいて体験してもらって、将来携わってもらいたいと考えています。

(A委員)

建設業は、数は多いが規模が小さい企業がたくさんあります。建物を建てる時は企業体を組んでいるので、そういうところに受け入れてもらうと広がるのではないのでしょうか。

(会長)

アンケートをとってマッチングをうまくさせる。発信を強化し思いを伝えていく。子どもたちの選択する範囲広げる。などの確なご意見をいただきました。これを参考に次年度へもつなげていきたいと思います。

(事務局)

昨年まで中学校の現場にいた経験からお話しします。アンケートにありましたが、元気がない、あいさつができないなど書かれており、実際に事前に指導をしてほしいとお叱りも受けます。あいさつは、大事なことで当然ご家庭でもご指導していただいておりますし、事前にマナー講座や部活動などを通じて指導はしているところです。しかしそれができないのが中学生。ともに育ててもらおうという考えで、かつての自分を見るようなことで企業の皆さんにもお願いしたいと思います。より実りあるものとして取り組みをしたいと思います。

#### (4) 家庭や地域におけるキャリア教育について

(事務局から説明)

### 5 報告

#### (1) キャリア教育に関わる諸事業について

- ① 結いジュニアリーダー育成講座 (第9期生)
- ② 結いキャリアアップ体験講座
- ③ 「結いのまち飯田」第8回キャリア教育作文コンクール

(事務局から説明)

### 6 その他

#### (A委員)

この委員になって、初めて知ることが多くあります。昨年はキャリア教育フォーラムに参加して中学生が真剣に考えていることを感じました。こんなに一生懸命やっているのに保護者に伝わらないことが残念です。発信についてぜひ取り組んでほしいです。

#### (I委員)

職場体験について理解を深めることができました。学校のカリキュラムもあってマッチングの難しさも感じました。企業の受け入れ可能な時期が見えてくるとよいのかなと思いました。

#### (D委員)

中学生の職場体験にあたり大変お世話になります。学校でもあいさつやマナーを学び、体験に行く前に自分のプロフィールを書いたり、とても意気込みをもってやっています。子どもたちも1人・2人で企業へおじゃますると、どこであいさつしたらよいのかなど、迷ってしまいきないこともあるので、ぜひご指導をお願いできればと思います。企業の皆さんから言われると身に付くことも多いと思います。

#### (会長)

受け入れる立場も経験したことから企業の側も大変だなと思っています。全国的に見ても飯田市やり方は素晴らしいと思いますが、逆を返せば弱点もみえてきます。もっと豪快にやっている自治体もあって、子どもたちが半日自由に企業訪問をして体験をする学校があります。自分たちが見つけてくるのですごく意欲が高いです。発想を広げてみるといろんな可能性がでてきます。また、コミュニティスクールで取り組んでいる自治体も多いです。いいところ取りをして取り組んでいければと思いますのでよろしくお願いします。

### 7 閉会の言葉

(この内容は、言葉遣いや言い回しなどを整理した上で作成しています。)